

会

派

の

意

見



文責は各会派にあります

平成西山クラブ

平成30年度の決算は、29年度に比べ、歳入では法人市民税が減収したうえ、相次ぐ自然災害への対応などで、行政運営に相当な困難が生じたことと思われる。しかし、国・府の補正予算措置に的確に対応し、財源の活用を図りつつ、緊急課題の解決に努められたことは、大いに評価したい。財政健全化の面では、実質収支が黒字、単年度収支、実質単年度収支は赤字の決算であるが、庁舎建て替えなど、今後の大きな需要に備

え、基金への積立てをした結果であり、堅実な財政運営の取り組みも高く評価したい。

国内外の経済情勢や消費税率引き上げの影響など、地方行政を取り巻く環境は、なお予断を許さない状況である。本市においては、長岡天神駅周辺整備など、投資的経費の膨らみや少子高齢化による社会保障費の増大が、財政運営にあたっての大きな懸案事項である。市長には、健全な財政運営と安定した市民生活をめざして、引き続き緊張感を持った市政運営に努められるよう要望した。

上村真造・白石多津子・田村直義

公明党

九月定例会では、平成三十年度一般会計歳入歳出決算と令和元年度補正予算などの議案を審議し、承認・可決されました。一般会計決算にお

いて、歳入では当初予算を上回る収入があり、歳出でも当初予算で計上していた財政調整基金を取り崩すことなく収支の均衡を図り、実質収支が7億7千万円の黒字となりました。実質公債費比率など財政健全化法に基づき、福祉・医療・子育てで推移しています。福祉・医療・子育てで支

援・教育の充実・待機児童解消・大規模災害への備え・超高齢化社会を迎え増え続ける社会保障給付費等を限りある財源の中でどう賄っていくのか慎重に審査しました。

また、公明党として、高齢者の安全運転支援と移動手段の確保を求める意見書と太陽光発電の適切な導入に向けた制度設計と運用を求める意見書の2件を提案させて頂き、全会一致で可決されました。公明党は、小さな声を大切に「大衆とともに」の立党精神を根本に、全力で働いて参ります。

福島和人・山本智・石井啓子

平成自由クラブ

令和元年度一般会計補正予算（第2号）及び平成三十年度歳入歳出決算が可決及び認定されました。

後期実施計画を推進する3つの戦略目標（定住促進・交流拡大・まちの刷新）の実現に向け、限られた財源の重点配分を行い、時代の要請や地域の要望に添えるべく、きめ細やかな配慮の中で、必要な施策の推進を図られたと認識しています。

国内外の経済・社会情勢など、地方行政を取り巻く環境は依然として

厳しい中で、第4次総合計画の将来像「住みたい 住みつけたい 悠久の都 長岡京」の実現に向けて、コスト意識の徹底や資産の有効活用、公平・公正な税負担の実現、市民との協働や民間の力も活用するなど、これまでと同様の丁寧な対話と、職員の方々とともに難局を乗り越える実行力・決断力を期待しています。

市民や各種団体・議会等からの意見や要望・指摘事項等につきましては、十分に精査・検証して頂き、見極めを行い、今年度の補正予算や来年度の予算編成へと繋げて頂きたい。

八木 浩 小野洋史 富岡浩史

日本共産党

「ごみ減量」は行政と市民の協力で

市は「指定ごみ袋制度」導入を打ち出しました。「ごみ削減目標達成が厳しそう」「可燃ごみに紙やプラが混じって出されている」とのことですが、削減目標や到達度合、分別方法の周知がそもそも足りていません。市一般廃棄物処理基本計画では、「古紙回収の回収機会の拡大」「事業所への古紙回収普及」など市の取り組み課題も書かれており、「市民のマナー」を言う前にすべきことがあります。

「削減目標や分別方法などもっと市民と対話をすすめ、『減量が進めば指定袋は導入しない』としてはどうか」と提案しました。

消費税増税が強行され、市は下水道使用料値上げも打ち出しています。党議員団は、くらしを守る論戦をすすめ、「保育無償化」による軽減より保育所で新たに徴収される副食費負担が重くなる世帯をなくすと答弁されました。75歳以上の「長寿検診」は施設入所者が対象外ですが、今後の検討が答弁されました。また、府営水道値下げに合わせ、市の水道料金も下げよと強く求めました。

輝（かがやき）

九月議会では昨年度の決算が公表され、我が会派は、認定に賛成しました。その理由は、国が定めた「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により算定と公表を義務付けられている実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の四指標について、公表以来、良好な状態を維持し、昨年度の決算も引き続き良好であったためです。

いる公共施設の更新・維持管理や、阪急長岡天神駅周辺等の中心市街地整備の事業などを、間近に控えています。財源の確保はもとより、一般会計ベースの経常収支比率が依然として高い数値であることから、持続可能な財政運営を安定的に継続していくために、より柔軟な財政構造を確立していくよう、強く要望いたしました。

各決算分科会では、それぞれ所管する事業をチェックして、具体的な指摘や要望をいたしました。

綿谷正巳・進藤裕之・富田達也
宮小路康文・大伴雅章

日本維新の会と 市民派の会

平成30年度決算は、歳入総額292億円、歳出総額282億円、歳入歳出差引額が約10億円の黒字決算でした。一方、単年度収支では、約1億円の赤字になり、市債は313億円を超え、市税収入は微減、財政調整基金は29億円でした。

今後迎える超高齢化社会に備えるべく、長期的な市政運営が、より一層重要になると考えます。増加する社会保障費に対し、税収が減る将来を見据えた上での戦略が必要になり

ます。各事業において、今後も、収支改善を徹底して行い、また、公共施設の再編整備についても、例外なく統廃合を進め、乙訓地域で連携できる施設や資産については、連携も視野に入れ、近隣自治体に働きかける必要があると考えます。

今後本市では、庁舎建替え、公共施設再編整備、長岡天神駅周辺整備事業などの大規模事業が具体化していきます。一方で、それら未来への投資に対して、いかに財源を確保するかを見極め、今後も強く提言するよう全力で取り組みます。

西條利洋 小谷宗太郎

平成市民クラブ

私たちは、平成30年度決算が適正に執行されていることを確認し、認定しました。補正予算では、10月から3〜5歳児を対象に幼児教育・保育の無償化に向けた子育て支援策の充実等を審議し、可決しました。

府道伏見柳谷高槻線の整備について、火ノ尾交差点周辺の安全対策や鈴谷地区から山間部の道路拡幅を促しました。また、市庁舎建設工事による第二駐車場の利用増や来庁者の安全確保について確認しました。小

学校プログラミング教育については、来年度全面実施の準備に関する具体的な答弁を得ました。さらに、地球温暖化対策、プラスチック資源循環等についての取組強化や地域循環共生圏の考え方を提案しました。

私たちは、今後も身近な課題解決に取り組み、各施策の確かな推進を図ります。いよいよ、明智光秀主役の大河ドラマ放映開始が間近に迫り、勝龍寺城等のPR機会も増えることでしょう。このチャンスを活かし、市民や関係団体が連携し、ふるさと意識の醸成を図る事業等を進めます。

三木常照・中小路貴司・寺嶋智美